

令和 6 年度第 1 回広島県子ども・子育て審議会 計画部会における
次期「ひろしま子供の未来応援プラン骨子案」に係る意見の概要

1 日時・場所

令和 6 年 8 月 1 日（金）13:30～15:30 エソール広島研修室 1・2

2 出席委員

区分	所属団体	役職名	委員	備考
保護者	広島県 PTA 連合会	副会長	生田 真紀	
子育て 支 援 事業者	広島県保育連盟連合会	副会長	三須 朋子	
	公益財団法人広島県私立幼稚園連盟	理事長	山中 隆司	欠席
	広島県学童保育連絡協議会	児童館館長	平松 ゆう子	
	広島県児童養護施設協議会	副会長	高井 竜司	
	一般社団法人広島県手をつなぐ育成会	広島市安佐北区支部副支部長	山竹 紀子	
	広島県高等学校長協会	会長	山垣内 雅彦	欠席
有識者	一般社団法人広島県医師会	常任理事	石川 暢恒	欠席
	広島大学	副学長（ダイバーシティ担当）	石田 洋子	部会長
	比治山大学現代文化学部	准教授	大里 弘美	
	広島都市学園大学子ども教育学部子ども教育学科	教授	竹林地 毅	

3 「次期ひろしま子供の未来応援プラン」骨子案に対する主な御意見

※ 次期プランの施策体系（案）の「領域」ごとに整理

【領域Ⅰ 子供たちが健やかにたくましく育ち、生きていく力】

意見
乳幼児期の教育・保育の質向上について、人的環境の質向上だけでなく、物的環境や空間・時間の環境の向上も両輪で取り組み、保育現場の先生が困りごとを一人で抱え込まず、園内で色々な人と話し合えるような雰囲気が生まれると良い。（三須委員）
「主体的な学び」について、各学校で学びの具現化に取り組んでいるが、目標値の達成に至っていない。「主体的な学び」の定着に関する質問内容が小学 5 年生にとっては難しい可能性もあるため、質問項目も工夫していただきたい。（大里委員）
「主体的な学び」について、特別支援学校の子供たちが主体的な学びを目指しているということを政策的に表現するためにも、特別支援学校においても「主体的な学び」が定着している児童生徒の割合を目標値として設定してはどうか。（竹林地委員）
生徒指導及び教育相談体制の充実について、不登校の児童生徒の場合に、将来のライフスタイルが描けないことが保護者の不安につながっている。保護者の相談対応や、カウンセリングを導入していただきたい。（三須委員）

【領域Ⅱ 子供たちが生まれ育つ環境】

意見
ヤングケアラーについて、子供は自分でヤングケアラーに該当するか分からず、また、ヤングケアラーだと認識したとしても支援制度が分からないため、子供とつながる学校の先生など大人が見つけてサポートし、支援が行き届くよう望む。(山竹委員)
放課後児童クラブについて、待機児童が増加しているため、希望する人が利用できるようにするとともに、部屋が狭いなど環境整備も重要であるため、検討いただきたい。(平松委員)
男性の育児参画について、パートナーの育児サポートは非常に重要である。男性支援では、抱き方などのハウツーだけではなく、子供の心と体が健全に育つために父親がキーであるということ伝えていただきたい。(三須委員)

【領域Ⅲ 配慮が必要な子供たちが自らの可能性を最大限高めることができる環境】

意見
社会的養育の充実・強化について、施設入所児童においても、愛着形成はその後の人生に影響する要因であるため、育成支援に愛着形成の構築を掲げていただきたい。(山竹委員)
障害のある子供への支援について、個別の教育支援計画・指導計画の作成率を成果指標とするのではなく、作る過程や、評価し改善したというアクション、また、成果を測定するような質の向上につながる仕組みを作っていただきたい。(竹林寺委員)
特別支援学校高等部では、入学時には就職希望の生徒が多くても、3年間でだんだんと減っていく。現実的な進路を考えるようになったとも考えられるが、過程で起きていることを丁寧にみて改善点を考えることが必要である。(竹林寺委員)
パラスポーツについては、障害の有無にかかわらず年齢や性別などに関わらずみんなで楽しめるスポーツであるということをもっと広く周知し、全ての人が暮らしやすいインクルーシブな社会に向けたアピールをしていただきたい。(竹林寺委員)